

総合周産期母子医療センター（小児科部門）

< 新生児集中治療部 >

1. スタッフ（平成26年4月1日現在）
 部長（准教授） 河野 由美（兼任）
 病棟医長（講師） 矢田ゆかり
 医員（講師） 小池 泰敬
 （病院助教） 俣野 美雪
 （病院助教） 下澤 弘憲
 シニアレジデント 1名
 他、小児科と兼務

2. 新生児集中治療部の特徴

栃木県の総合周産期センター二施設のひとつとして、栃木県で出生するハイリスク新生児のほとんどを二分する形で診療している。地方の中核病院であり、入院するハイリスク新生児の疾患は、超低出生体重児から先天異常、外科疾患など多岐にわたる。勤務するスタッフは全員、診療科としては小児科に属しており、兼務である。

・認定施設

日本周産期・新生児医学会認定研修施設

・認定医

日本周産期・新生児医学会（新生児）専門医
 矢田ゆかり、小池 泰敬

3. 実績・クリニカルインディケータ

1) 年間入院患者数

487名（再転入12名を除く）。院内出生434名（母体外来観察例79名、母体搬送37名、母体外来紹介318名）、院外出生53名（病院等からの搬送50名、自宅出生等3名）

2) 人工呼吸器管理数・率

146/487例、30.0%

3) 生存率・死亡数など

| GA (W) | 入院 | 生存 | 死亡 | 生存率 (%) |
|--------|-----|-----|----|---------|
| 22 | 0 | 0 | 0 | — |
| 23 | 3 | 3 | 0 | 100.0 |
| 24 | 2 | 1 | 1 | 50.0 |
| 25 | 2 | 2 | 0 | 100.0 |
| 26 | 6 | 4 | 2 | 66.7 |
| 27 | 2 | 2 | 0 | 100.0 |
| 28 | 7 | 6 | 1 | 85.7 |
| 29 | 9 | 8 | 1 | 88.9 |
| 30 | 8 | 8 | 0 | 100.0 |
| 31 | 9 | 9 | 0 | 100.0 |
| 32 | 23 | 23 | 0 | 100.0 |
| 33 | 13 | 13 | 0 | 100.0 |
| 34 | 35 | 35 | 0 | 100.0 |
| 35 | 41 | 41 | 0 | 100.0 |
| 36 | 52 | 50 | 2 | 96.2 |
| 37以上 | 275 | 271 | 4 | 98.5 |
| 計 | 487 | 476 | 11 | 97.7 |

| BW (g) | 入院 | 生存 | 死亡 | 生存率 (%) |
|--------|-----|-----|----|---------|
| < 500 | 0 | 0 | 0 | — |
| < 750 | 7 | 5 | 2 | 71.4 |
| < 1000 | 11 | 9 | 2 | 81.8 |
| < 1250 | 15 | 15 | 0 | 100.0 |
| < 1500 | 26 | 24 | 2 | 92.3 |
| < 1750 | 39 | 39 | 0 | 100.0 |
| < 2000 | 51 | 50 | 1 | 98.0 |
| < 2500 | 102 | 99 | 3 | 97.1 |
| 計 | 487 | 476 | 11 | 97.7 |

4) 年間死亡数11名。死亡症例内訳

- ・在胎37週 18-trisomy、VSD
- ・在胎37週 18-trisomy、臍帯ヘルニア、DORV、CoA
- ・在胎26週 超低出生体重児、先天性喉頭閉鎖
- ・在胎26週 超低出生体重児、肺低形成
- ・在胎29週 非免疫性胎児水腫、肺分画証、心不全
- ・在胎28週 超低出生体重児、腎無形成、肺低形成、肺高血圧症
- ・在胎36週 VACTER連合、両側腎無形成、食道閉鎖、鎖肛、十二指腸閉鎖、ファロー四徴
- ・在胎37週 多のう胞性腎乳幼児型、肺低形成
- ・在胎36週 先天性多発関節拘縮、多発翼状片
- ・在胎24週 新生児仮死、臍帯ヘルニア、心不全
- ・在胎38週 18-trisomy、VSD、ASD、CoA

5) 先天性心疾患入院例

有意な血行動態異常を呈する中等症・重症例34例。そのうち胎児診断18例、PICU転科・手術14例、NICU内死亡2例。

6) 多胎入院数

108名。

7) 外科症例（手術例のみ）

21例、光凝固術5例。

8) 逆搬送

23例。

4. 事業計画・来年の目標

周産期医療をめぐる状況は毎年、目まぐるしく変わっている。栃木県出生の新生児の他県への搬送は非常に少ないが、県内の産科施設の状況も不安定であり、このまま、県内出生全例の県内収容が継続できるか不透明である。今後も、県内の総合周産期センターである獨協医大、および関連の地域周産期センターと協力・連携を図って、栃木県、北関東地域の周産期医療の充実を図りたい。さらに、自治医大NICUは、周産期連携センターとしての役割もあり、来年もこれらの責任を果たしていきたい。医療面では、25年度に開始した低体温療法の実施など高度医療を必要とする新生児症例への集中治療に今後も取り組んでいく。

2009年度に自治医大周産期センターは周産期医療に携わる人材育成および地域の周産期医療レベルの向上のために、文科省から補助金を受け、「周産期医療教育・支援部（JPEC）」による種々の事業を実施してきた。本事業は2013年度で終了したが、周産期医療の人材養成と、周産期医療に関わる教育は継続していくことが医療レベルの向上に繋がる。そのため、新生児集中治療部として、新生児蘇生法講習会、周産期新生児研修会等を継続して開催する予定である。

<新生児発達部>

1. スタッフ（平成26年4月1日現在）

部長（准教授） 河野 由美
他、小児科と兼務

2. 新生児発達部の特徴

新生児発達部はNICUからの円滑な退院と在宅医療への移行のため、NICUと連携して新生児外来を担当している。主な対象は当院および地域関連病院のNICU退院児で、診療内容は成長・発達の健診とともに合併症の治療・精査、必要な養育支援である。

主な対象は、①早産低出生体重児、②合併症のあるNICU退院児、③新生児難聴スクリーニングの精査・フォロー、④シナジス外来（冬季に、RSV重症化予防のためのパリビズマブ接種）である。出生体重1500g未満の児は国の共通プロトコールに従って、心理、リハビリテーション部門とともに小学校入学後までフォローアップしている。

3. 実績・クリニカルインディケーター

昨年度の診療実績は、新生児外来年間受診者数2073名、シナジス外来年間受診者数283名であった。